

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道

平成26年 龍源寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4~1/7 年始挨拶
- ※1/10 年賀寺例
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 釈尊涅槃会
- ※3/9 大般若会併修大施食会法要
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- 3/23 旧蚕影山例祭日
- ※4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 4/29 大施食会併蚕影山例祭法要
- 6/19 檀信徒研修大会及梅花県大会及二祖国師予修法要
- 7/13~7/16 京浜地区檀信徒棚経
- ※7月下旬(一泊二日) 第33回子供禅の集い
- 8月上旬 夏季おてんま
- ※8/10 中元寺例
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- ※10/19檀信徒参拝研修旅行
- 12月上旬 冬季おてんま
- ※12/8 釈尊成道会
- ※12/10 歳暮寺例
- ※12/31 除夜会

- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定例坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講・琴教室・華道教室
- ※は、御本寺仁叟寺にて開催

平成26年甲午 住職年頭挨拶

謹賀新年

「流水不腐（流水は腐らず）」

中国秦代の政治家

呂不韋『呂氏春秋』より



新年、明けましておめでとうございます。

今年の年頭に当たりまして、中国は秦代の政治家・呂不韋の著した『呂氏春秋』より冒頭の言葉を紹介いたします。

こちらは、その後「戸枢不蠹」（扉の軸は虫に喰われない）と続きます。意味は読んで字の如しです。常に流れ、そして動くものは腐らない。我々は、自身の中で正しいと思うカタチを作ってしまうと、他の意見や他の価値観を相容れぬモノとして認められなくなってしまうものです。心に余裕をもって、自身の拘泥を捨て、視野を大きく広げ、執着することなく生きたいものです。

禅の修行僧を指す「雲水」という言葉、編集後記の題でもある「行雲流水」からきております。行く雲、流れる水の如し。我々は、どこか自分の心の中で自身の枠組を作ってしまったてはいないか？難しいかもしれませんが、心に清流を保ちたいものです。

本年も、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成26年 年回表

一周忌	平成二十五年	二十三回忌	平成四年
三回忌	平成二十四年	二十七回忌	昭和六十三年
七回忌	平成二十年	三十三回忌	昭和五十七年
十三回忌	平成十四年	五十回忌	昭和四十年
十七回忌	平成十年	百回忌	大正四年

- ※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。
- ※2 該当檀信徒各家には封書にて通知が届きます。（但し、百回忌を除きます）

龍源寺本堂改修工事について

一昨々年に龍源寺の本堂及び庫裏にシロアリが大量に発生し、甚大な被害が出ました。その年に庫裏の床及び柱の補強、昨年には本堂の東側及び北側の床下と柱等の補強交換を檀信徒の加部元信様、田中左官工業様に依頼し工事を施工しました。併せて神部住宅サービス様によりシロアリ消毒を施しました。

昨年も、大施食会終了後に庫裏本堂の補修を施し、シロアリ被害で壊れていた境内の太鼓橋も補修いたしました。シロアリ・クロアリ・ハクビシンの被害で建物がかなり傷んでおります。ここ数年間、被害が出る度に、修復に修復を重ねて参りました。しかしながら、耐震の観点からも建て直しが必要ではないかというご意見も頂戴し、役員会の席上、検討審議を重ね、昨年秋の役員会で当寺本堂の改修工事を正式に決定させていただきました。4月29日の総会で諒解が得られれば、改修に向けて進めさせていただこうと思っております。

就きましては、檀信徒の皆様方はじめ関係各位にご尽力を賜りたく存じます。ただし、今直ぐに改修を行うという訳ではございません。今まで通り、役員会等でゆっくりと慎重に審議を行い、様々な観点からより良い方法を考え、知恵を結集し、最善を尽くさせていただこうと思っております。何卒、ご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



上) 本堂外観
中) 本堂内部
下) 柱が白アリ被害に遭い両面より補強補修しました

秋の参拝研修旅行報告

昨年10月17日、毎年恒例の龍源寺・仁叟寺主催秋の研修参拝旅行が行われました。毎年10月の第三土曜日に行われ、茨城県へ伺いました。

参加者は53名。群馬県に3台しかないと言われる59人乗りの大型バスにて移動。北関東自動車道の開通により、茨城県も近くなりました。日本三大稲荷の笠間稲荷神社参拝の後、水戸の偕楽園、大洗那珂湊にて昼食及び被災地支援を兼ねた水産市場の見学。仁叟寺も御縁のあります水戸光圀公の帰依した名僧・東皐心越禅師開山の名刹・祇園寺様に拜登。住職様より丁寧な説明及びお話を伺うことが出来ました。ありがとうございました。

本年も秋に行う予定です。また、春先には、他の寺院研修を兼ね龍源寺単独主催での研修旅行を企画しております。奮ってのご参加をお願い申し上げます。

→ 祇園寺様参拝。住職様より山内外の堂宇始め祇園寺様の歴史等、丁寧なご説明を頂きました。
日本三大稲荷・笠間稲荷神社参拝。



仁叟寺通信 ～高崎市指定避難所・仁叟寺～

災害時の駆け込み寺 仁叟寺県初の避難所指定

高崎市は、災害時に建物を開放して受け入れる避難所として、同市吉井町神保の仁叟寺（渡辺啓司住職）を指定した。寺院が避難所に指定されるのは県内で初めて。寺院ならではの広い畳敷きのスペースが避難生活に適する環境だとして、寺と地元住民が市に提案していた。渡辺住職は「寺が社会的責任を果たすことにもつながる。他の寺院にも広がってほしい」と話している。

発電装置や備蓄本堂で寝泊まり

仁叟寺には、本堂など計360坪（約1200平方メートル）の畳敷きの部屋があり、少なくとも500人は寝泊まりができる。避難対象は吉井町第13区の約300世帯と、2,12両区の一部の世帯。従来の避難所までの距離と比べ最大1キロ程度から約50メートルに短縮され、200世帯超で避難所が近くなるという。

市は寺に災害用備蓄品セットを設置し、対象地区への周知を進めている。市防災安全課は「地域に密着し、畳敷きの環境がある寺を災害時に開放してもらえるのはありがたい」としている。市が民間施設を指定避難所にするのは初めてで、県内の他市町村でも私立大学や、洪水時に限り避難所になる高層の商業施設など少数を除き、ほとんどが学校や公民館だ。高崎市は、申し出があれば今後も民間施設の指定を検討する。

東日本大震災後、被災地でボランティア活動を行ってきた寺は、体育館の冷たい床に段ボールや毛布を敷き詰めて過ごす避難者や、大勢の住民を受け入れて“駆け込み寺”となっていた被災地の寺院を目の当たりにし、「災害時に寺が果たせる役割があるのでは」と模索してきた。

13区の関口孝雄区長(70)も「独居の高齢者が多い地区なので、身近な寺に逃げ込めるのは安心」と賛同し、地元住民らの署名を集めて市に提出、ことし5月に指定された。

寺は9月指定避難所を示す看板を寺の周辺4カ所に設置した。11月には、防災設備の施工などを手掛ける「第一テクノ」（東京都品川区）が寄贈した非常用発電装置も完成し、停電時に敷地内で17時間分の電気が供給できるようになる。（上毛新聞11月8日付社会面記事より）



高崎・仁叟寺住民防災訓練

高崎市指定避難所になった同市吉井町の仁叟寺で、地元住民が防災訓練を行った。子どもから大人まで約90人が、施設見学や心肺蘇生法の実習を通し、災害時の対応を確認した。

渡辺啓司住職が、災害時には本堂など畳敷きの建物を開放することを説明。参加者は、避難所の指定を受けて民間企業から寄贈された、停電が起きてから10秒で発電する発電機や、排せつ物を固めて燃えるごみにできる携帯トイレを見学した。

停電時、手動で発電して飲み物を取り出せる自動販売機の使い方も紹介され、多胡大輝君（12）は「最先端で驚いた。多くの人のために役立ってほしい」と話していた。寺はことし5月、市内では初となる民間の避難所に指定された。住民への周知のため、同市第13区が初めて行った。

（上毛新聞11月28日付地域面記事より）

→ 昨年十一月二十三日仁叟寺にて実施された地域防災訓練風景



龍源寺参道・駐車場修復工事完了報告

前号の寺報でもお伝えした通り、龍源寺参道及び駐車場の整備工事が、昨年夏をもちまして一段落いたしました。施工業者は、高崎市吉井町多比良の石匠多比良（篠崎正道社長、篠崎和男会長）様。今回の一連の事業は、そのほとんどが同社の御寄進による所が大きく、顕彰石碑を建立し、有難い御縁に感謝を申し上げます。

駐車場は三面を擁壁で囲い、土砂の流入を防ぎました。また、参道二箇所はコンクリートが剥げて車が登ることもままなりませんでしたが、今工事にてメッシュを入れての補強を施しました。

ほか、今回の工事に合わせて、駐車場より当寺や墓所にお参りし易いように、階段も設置いたしました。是非、ご利用いただければと思います。

なお、当工事では寺の事業として行い、檀信徒の皆様方にご協力は特に募ってはおりません。宜しくご理解の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



↑ 整備された駐車場。



↑ 参道も綺麗になりました



↑ 新たに階段も設置いたしました

龍源寺境内地の登記更新手続きについて

大東亜戦争後の農地解放にて、龍源寺の寺領は現在の境内地を残し悉く解放となりました。折しも、当時の渡辺忠久住職は海軍に徴兵され、比国マニラ沖にて戦死。当寺は無住となっておりました。その際に総代人を務めておりました白田弥十郎翁（故人）は、寺の土地がなくなってしまうことに危機感を覚え、率先して境内地を護ったと伺っております。その際の土地登記について、未だ変更されていない箇所が見つかりましたので、現在その手続きを進めております。翁の遺志に感謝いたします。詳細は、改めて役員会や総会等で、ご報告申し上げます。

行雲流水（編集後記）

編集人 住職 渡辺龍道

明けまして、おめでとうございます。

昨年も一昨年に引き続き、山内外での行事が数多く行われました。関係各位に改めまして厚く御礼を申し上げます。

さて、龍源寺及び副住職を務めます仁叟寺では、HPの充実を図っており、細かに更新をさせていただいております。そのHPにも記載があるように、当方のブログ及びフェイスブックも更新してございます。寺院が伝え

るべきことなどを考え、教化の意を含め作成しておりますので、宜しければ、是非併せてご覧いただき、ご登録いただければ幸いです。

（龍源寺HP <http://ryugenji.info/>）

（仁叟寺HP <http://jinsouji.net/>）

本年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。（龍）



FBも始めました。詳細は龍源寺HP迄。